

feature interview

ia & DJ WATARAI

HARLEMのMIX CDシリーズ第三弾ののトータルプロデュースを務めるなど多方面で活躍中のiaが初登場! MIXを担当したDJ WATARAIも加わっての貴重なインタビュー!

■まずはiaさんにお聞きしたいのですが、音楽に携わるようになったきっかけは?

ia(以下i): ロンドンに住んでいた時からまわりにDJの友達が多くていつも遊んでた。特にブラックミュージック、HIP HOP、R&Bもそうだったけど、ちょうど私が大学生くらいの時に、UK REGGAEとかが流行っていて、友達と一緒にガレージレブとかHIP HOP、R&B RAVEとかをやっていたの。RAVEって凄いいギリスっぽい言い方で、まあイベントとかダンスとかそういう意味で、私はその時は遊んでるだけで大して何もしなかったんだけど、それである時に、その友達の一人が、海賊版ラジオを立ち上げる事になって、それを一緒にやり始めたのがきっかけかな。発端は遊びからかです。遊んでるうちにどんどん広がって、海賊版ラジオをやる事になって、そうしてるうちに、友達がレコード会社みたいな、マネージメントみたいな新人発掘を始めて。そこはイギリスのガールズグループのシュガーベイブとかオールセイヴンとかを当時プロデュースして、ちょっとずつ手伝うようになった。それとは別に、アジア人モデル事務所に入っていたんです。昔はけっこうガリガリだったんですよ(笑)。それに外人ウケするようなアジア顔っぽいから、映画とかCMの仕事とかやってたの。それをやりつつ、音楽系をやりました。

■日本に来たのは?

i: 最初日本には旅行で来たんですよ、スーツケース一つで。大学は建築とグラフィックとマルチメディア、Saint Martin'sっていうファッションの強い学校で学んできました。ちょうどその大学の親友二人(イギリス人)が日本に行って住んでいたから、私も遊びに行こうと思って、2週間帰る予定が、あまりの楽しさに溺れてしまい、居座らせて頂きました(笑)。

■ラジオやTVの他には?

i: まあ、メインでやっているのはTVやラジオの喋り、プラスクリエイティブなところで、スタイリング、クリエイティブディレクションだね。ファッションとか絶対私っぽっていうスタイルがあるからそれを活かしたい。あとはもの書いてるんですよ。今日もその執筆作業で徹夜しましたが、まあコラムとかライナーノーツとかだけ。すべてia流で感じてるので喋り感覚で書いてる。テレビとかラジオをやるようになって、私のファッションがいいねっていうアーティストとか雑誌の人とかが機会を与えてくれて、アーティストのスタイリングとかはよくやるようになったのね。他には、ラジオで声を聞いて、「良い声してるからナレーションやって」と言う人もいれば、私のアホな喋りを聞いて「この人に何か、ものを書かせてみようか」とコラムが始まったり。そのコラムがまた「ジャマイカ旅行とか良かったから、じゃあ次これ書いて」という。一個一個の仕事が、うまく次に繋がったのかな。そういう所から、アーティストのライナーノーツを書くまでに至りました。あとは、大学でグラフィックとかずっとデザイン系をやっていたから、そういうクリエイティブな所はキープしたいと思って。物を作る脳は、何もなしとどどんと寝るから、「ジャケ丸やらないか」という話にはどどんと飛びついた。そんな感じで広がっていったという感じですね。

■そして12/8にリリースされたMIX CD「ia presents HARLEM MIX SHOW」の話も繋がった? i: そう。HARLEMと一緒にラジオやってるから、HARLEMとの関わりは一緒にありつつ、遊びもありつつ、「ファッションとia的な音楽をCDにしてみてもいいね」って所から始まりました。

■好きでやっていた事が自然と仕事に繋がってきたという感じでしょうか?

i: 私は何をやるにしても常に意識していることがあって、それは、自分のセンスを使ってものを作りたいっていう事。喋りもファッションも音楽も、何でもセンスだと思ってる。好きな物を自分流に捌く、みたいなの。だから、海賊版ラジオを始めた時も、自分の好きな音楽を人に聴いてもらいたい、みんなで楽しみたいという所から始まったし、アーティストのA&Rをやった時も、私のセンスで女の子をプロデュースしたいとか、そういうのがうってあったから。それを段階を経て日本でも出来るようになったのかな。直感とセンスと臭い(嗅覚、野性的なんです)で生きてるからね。でもそれがある意味iaフレヴァだから、そこは私の武器かな、と思う。私のセンスは私にしかないから、番組を作るでも文章を書くでも自分のクリエイションでしょ? そういうのはずっとクリエイティブなものとして、ファッションにしても、喋るにしてもやりたいなのは昔からあって、それがちょうどいい感じに実現しているのかな。

■今回のCDは「ia presents」という冠があって、ジャケットから全てこだわりを持ってやったと思いますが、面白かったり難しかったりしたことはありますか?

i: 「ia presents」でやるという事は、自分が人に提供する訳だから、変な物は出せない。しょぼいかしょぼくないかは、そのやる人のセンスとかやり方だと思うからホントに責任重大だよね。やってその重大さがわかった(笑)。最初は生半可に“あ〜「ia presents」のMIX CDね〜。ワタくんやってもらってちょちょっと”みたいな感じで軽く考えてたんだけど、そんな軽く考えてちゃいけませんよ、ホント(笑)。考えれば考えるほど大仕事だし、変なものを出しちゃうと、自分の名前にも、関わってる人にも傷がついちゃう訳だし。私がやるからにはia's セレクション、私の視点でやるからには私の思うスタイリッシュな事を、ビジュアル的にも音的にも反映させたかったのね。MIX CDって、今までのHARLEMのMIX CDもそうだったと思うけど、ジャケはロゴだけだったりする商品とかが多かったでしょ。そういう普通のMIX CDじゃなくて、せっかく私がやるんだし、ワタくんも関わるMIX CDであれば、もっとヒューマニティというか、人間っぽいジャケでも良いんじゃないかと思った訳ですよ。iaセレクトだったら、私がセレクトしたものを着ちゃってもいいし、私はファッションにこだわってるから、そういうiaセレクトファッションの女の子向けのちょっとしたリトルマガジンみたいなジャケでも面白いかなという所から始まりましたね、ジャケ作りは。

■今回の選曲はどのように話し合ってたのですか?

i: 最初はHARLEMだからフロアっぽい新譜とかありつつ、今聴いても格好良いクラシックだねと言えるような物をスパイスとして入れようっていうテーマで、私は“こういう昔の曲も入れたいんだよね”という話をワタくんにして、「じゃあお互いリストを出し合おう」という事になって、お互いの入れたリストをくっつけて、そこら。

■WATARAIさんにとっては初のオフィシャルMIX CDですが、何か特別な意識はありましたか?

WATARAI(以下W): あんまりないですね(笑)。プレゼント用のノベルティだったり自分で作るMIX TAPEとかは年間通してやっているので、そんなにオフィシャルだからという事は考えませんでしたね。特に今回はia presentsという事で、僕は裏方なんです(笑)。要はそれを世に出してどうこうというのは全部iaに任せて、僕はMIXのこしか考えてなかったからそんなに特別な意識もなく。

■一人でやるよりは、iaさんがいることによって良い意味でiaフレヴァが注入された? i: 良い意味でも悪い意味でもね(笑)。

W: 選曲はそういう意味では助けられた。許諾の問題が一番の壁で、まとめる為には穴が多かったんだけど、その穴埋めが出来たのは全部iaのお陰だったりするから。だから僕的にはやり易かったです。例えば、今回は最初から「新旧問わず入れる」というのがコンセプトとしてあったけど、旧譜はどうしようかってなった時に、iaがTribeの“Bonita Applebum”入れたらって言うてくれたり。女の子が“Bonita Applebum”好きだった意識が僕にはなかったから、そういう女の子を見た、女の子が好きなミドルスクールも入れられたし。

■やはり女性向けの仕上がりがですか?

i: 女性が気に入るような感じだけど、ホント、誰でも聴けるMIXだと思うよ。HARLEMのMIXだからフロアっぽいあげげなHIP HOPも入れたかったんだけど、その他に最初から新旧問わず入れる事になってたから、例えばR&Bを入れる時に最近のフロア寄りのR&Bを入れるより、ちょっとスローダウンしてメロウに落ち着く所に昔のR&Bとか地味めなものとかミドルのものとかをスパイスとして挿入したかったから。そういう所で女の子も聴きやすいスパイスネタがいっぱい入ってるんじゃないかな。私、もともと地味めなのが好きなんでしょ、きんど。

■でも、しっかりまとまっていますよね?

i: それはもう、ワタライ先生ですよ、師匠!(笑)。尊敬してますよ〜、ホントにさすがワタくん。

W: 誰がやってもああいう感じになると思うよ、多分(笑)。今回ね、頭から最後まで流れるにはかなりよく出来たと思ってるから。この選曲でよくここまで出来たなって思ったりする(笑)。あんまり無理矢理っぽい所がないでしょ? 並びは無理矢理なんだけど(笑)。そのわりには“全然違和感ないな〜”とか思って。

■ロンドンや海外のクラブと日本のクラブの違いは?

i: まず、たぶん文化や生活のリズムの違いなんだろうけど、日本って夜遊びに行く時にあんまりドレスアップしないでしょ? でも、NYとかロンドンとかって、夜



遊びに行ったりどこかのパーティーに行く時ってだいたいみんなお洒落をするの。イギリス人は17時半とかに一回家に帰って、ご飯食べて、それから“何着よう?”とかやって、遊びに行くのね。それが日本には欠けると思うの。まあそこは生活パターンの違いがあるから仕方ない所はあるけど。

それから、日本の女の子で、俗に言うB-GIRLのファッション。最近だんだんましにはなってきたとは思いますが、やっぱり私が今後ファッションの事を色々やるなら、変えなければ良いと思って。“HIP HOPだからこう”というの多少はあるけど、私は自分のスタイルを持って自己流のオリジナルな服装がHIP HOPのファッションだと思うのね、特に女の子は。自分の手元にあるものを上手くコーディネートして、自分の思うHIP HOPスタイルを作れば良いと思うんだけど、何かみんな一緒に見るんだよね。そういうお洒落をして行ける場所があったら良いし、女の子もお洒落をする事で、自分のセンスを磨けると思う。

あとは、どのDJも言う事だけど、日本のクラブはみんなDJブースを見てボカンしてるんじゃない? あれ嫌だね。男と女がワイニーワイニーとかももっと大胆にして楽しんでやれば良いじゃん。DJブースの方だけ見ているんじゃないで、フリースタイルに自由に楽しめる空間がせつかくあるんだから、そこを楽しめばいいんじゃない? 他の場所は、こうしないといけないとかあるんだろうけど、クラブの中では楽しむ事に関しては好きなようにすれば良いと思うよ。人に迷惑をかけるんじゃないんじゃないかって思うよ。ナンパはちょっとウザいけど。

■1/9のリリースパーティーの出演者もiaさんにセレクトして頂きましたが、どんなパーティーにしたいですか?

i: 主役はワタくんだから。

W: ハセベくんもいってほしいよ。ハセベくんがいい感じにお洒落でまとめてくれるかなと(笑)。

i: そうそう、それが見たいと思ってね(笑)。久しぶりのこのコンビが見たいなって思って。ハセベくんだったら勝手にしてくれるから良いんじゃないかなと思って。あと、セロリはお洒落さんだから。そんなお洒落フレヴァを入れつつ、あとはワタくんが好き勝手、気合入れてやってください。

■BX CAFEの出演者のこだわりは?

i: BX CAFEはさきも言ったけど、お洒落して行くところがないとか、ずっとHIP HOPを聴いてきた人達が30代になって、そういう人達がクラブに行きにくく思ってるというのがあるから、そういう人向けにもちろんそういう人達だけじゃなくて、ホントに幅広く色々な人が、昔から知ってる人が来て楽しめるような音楽と雰囲気、プラス20歳くらいの若い子が来てもこの空間気持ちいいなっていうのを作りたいから。だからBX CAFEはちょっとCHILLな感じで。

MIX CDもちょっと古めの90年代初期とかの曲があったり、幅の広い選曲になってるから、HARLEMではフロア寄りのものやって、BX CAFEでは選んで“BACK TO THE OLD SCHOOL”ってMUROくんの言葉を借りますが、そういうフレヴァがあったら

色々な人が楽しめるかなと思って。私の人生も色々なところ転々としてるからMIXのバックグラウンドだし、ファッションもMIXだし、好きな曲とかもMIXして、今回のCDもMIXだから、いろんなOldies フレイヴァをMIXしようかなと思って。だからKING MURO、OldiesのKING COJIEがいるし、あとは九州からGREEN PEEACE。あの人もR&Bとか昔のミドルとかも大好きだから、昔のフレヴァを出せるから。で、レアな人達を呼びました。

■2005年の予定は?

i: もっとクリエイティブな事を増やしていきたい。自分がやる面白い番組を増やすのも良いけど、ものを作るのが好きだから、自分のセンスを生かして、クリエイティブディレクションなりプロダクションなり、そういう事を増やしたいな。まあ今一番やりたいのはファッション系ですね。そっちはまだ何も決まってるけど、乞うご期待という感じで。

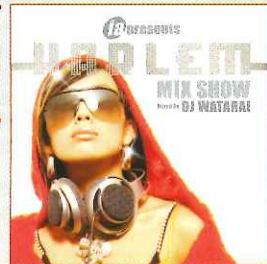
2005年はwww.ia-9.comもしっかり立ち上がる予定! こっちもチェックしてね!

W: 僕ねえ、無いっすね(笑)。僕は現状維持で(笑)。現状維持するのは大変なんだから(笑)。同じ事やっていても現状維持は出来ないんだから。ある程度新しい事を盛り込んでいかないと現状維持は出来ないし、プラスαとして何かついてきたら良いかなと。DJに関しては言えばHARLEMの金曜日中心に頑張ってるみたいな、と。久々のHARLEMの毎週レギュラーって事もあるし、来年はちょっと今までの“The Finest”と違う“The Finest”に出来れば良いかなと思ってます。

■最後に読者に一言。

i: ガールパワーに期待!。女の子ももっとやっちゃっても良いんじゃない? 女の子も色々な楽しみ方あるし、お洒落して男を教育するくらいの勢いで遊びに来ちゃって欲しいよね。日本の女の子は“25歳過ぎるとやりたいこと出来ない”とか“クラブに行けない”とか言う人多くない? 最近が良い感じに色々やらしてくれる人が多いから楽しい。自分でリミットを決めちゃわないで、何歳でも結婚しても、たまには子供を預けて遊びに来るとして良いと思うから。楽しんで欲しいよね。自分がやりたいようにやれば良いんじゃない? って思うよ。私は楽しむ事に関しては天才だと思うもん(笑)。

ia presents
"HARLEM MIX SHOW"
Mixed by DJ WATARAI



Now On Sale!!
¥2,200 (Tax incl.) BVCP-24061
BMG JAPAN / HARLEM RECORDINGS